深い学びのために
学習のポイントの解答例

1　人魚が「モノ」として捉えられている表現と、そうでない表現を文中から探してみよう。

【答】
・「モノ」として捉えられている表現
交番に届ける（二四七・上5～6、上12）
大きな荷物になる人魚（二四七・上10）
拾得物の処理方法（二四七・上16）
人魚を取りに来た（二五〇・下4）
・そうでない表現
「このひと」（二四六・上10、13、15）
「海に帰す」（二四八・上19、二五〇・下13）＊「返す」ではない

2　「エノモトさん」と「わたし」の日常が、人魚を預かってから、どのように変化していったか、それぞれについてまとめてみよう。

【答】
・「エノモトさん」
「最初は～」（二四七・下1）～「きみに相談することにした」（二四八・上1）までをまとめる。
・「わたし」
「わたしはいつもと変わりなく～」（二四九・下6）～「一週間後だった」（二五〇・上12）までをまとめる。

3　人魚を海に帰しに行ってからの、「エノモトさん」と「わたし」の様子を「声」に着目して抜き出し、気づいたことをまとめてみよう。

【答】
・「エノモトさん」
早足（二五一・上17）
決然とした足どり（二五一・下6）
「帰す」～少し弱々しかった。（二五一・下15～16）
「やめない」もっと弱々しい声である。（二五二・上2）
「まあそうだが」～まなざしが落ちつかない。（二五二・上6）
「そうかもしれない」～ぼんやりとした口調になっている。（二五二・上10～11）
・「わたし」
せっぱつまっているのに、眠くなる。（二五一・下4～5）
泣きそう（二五一・下14）
やめようよ（二五一・下17）
いいじゃない、～誘う口調で言った。（二五二・上3～4）
自分のどこからこんな声が出るのかわからなかった。（二五二・上4～5）

甘い声（二五二・上8）
いけない、いけない。～声が出ない。（二五二・上12～14）
口を開くと～懸命に歯を食いしばった。（二五二・上19～20）
▼ポイント▲　エノモトさんは再度人魚にふれ、どんどん意志が弱まっていき、声が弱々しくなり、最後はぼんやりしていく。わたしは自分の気持ちとは裏腹な言葉が口を開くと出てしまうので、懸命に歯を食いしばる。

4　作品の中で何度も取り上げられる「モノ」が果たす役割を考えてみよう。（例：コーヒー）

【答】
・「コーヒー」
　私とエノモトさんの日常を表している。エノモトさんが人魚を手に入れてから「コーヒー」の誘いがなくなる。わたしは久しぶりの「コーヒー」をおいしくいただくが、エノモトさんの部屋で人魚を見てから味が分からなくなる。最後、人魚から離れ、日常が戻った後、「おいしいコーヒー」の誘いがくる。また、「コーヒー」は中毒性があるものであり、エノモトさんとわたしは、この「コーヒー」でつながり、「人魚」でもつながったわけである。
・「桜」
　時間の経過と、人魚への依存度を表す。
　また、桜と人魚の描写を重ねることで、すべては桜がもたらした幻想のようにも読める効果がある。
・「浴室」
　閉鎖的で、人魚との濃密な時間を過ごす非日常的な空間を作り出している。
　その他、「花びら」などが考えられる。

言葉と表現の解答例

1　本文中から「離さない」「離れられない」のような、「離…」という語を抜き出し、それぞれの語の持つ印象について、話し合ってみよう。

【答】　「離れたくなかった」「離れがたい」「離れられない」「離れた」「離れない」「離せない」「離せそう」など。
▼ポイント▲　例えば、「私はあなたを離さない」と「私はあなたから離れられない」の二つの文を比べたとき、どちらの方が離れそうか、また、二人の気持ちが離れているのはどちらかなどを問いかける。また、例文にある感情や状態を熟語で表すとどんな言葉になるか、などを問いかけることで、それぞれの言葉が持つ印象が違うことに気づくことができる。
「離さない」（例・執着・束縛など）
「離れられない」（例・依存・未練など）

2　1で抜き出した語を使って、短文を作ってみよう。

【答】

・私はその場から離れたくなかった。
・あの二人は離れがたい関係にある。
・そう簡単には離れられないことに気づいた。
・少し離れたところから観察しよう。
・子猫が私の足下から離れない。
・心配で目が離せない。
・もう少しで手が離せそうだ。

言語活動の解答例

1　本文の描写をもとに、「人魚」の絵を描いてみよう。

【答】　この作品では、人魚の描写が具体的に細かく描かれている。それぞれが持つ人魚のイメージではなく、この作品の人魚の姿を具体的にイメージすることで、人魚の様子や人魚が言葉を発したときのインパクトがより印象的になるだろう。

2　人魚は、世界各国でこれまで、どのように描かれてきたのか、伝説・小説や図像を調べてみよう。

【答】　人魚は世界中のさまざまな文献に登場している。本文にも「いにしえの昔から、人魚はそういうものと決まっているし、などと、エノモトさんは言い、人魚がいかに人を惹きつけて離さないかをしばらく説明した。」（二四六・下18～二四七・上1）ともあるように、人魚は人を魅了し、不思議な力を持つ存在として描かれている。

　生徒が最もなじみがある「人魚」は、アンデルセンの『人魚姫』であると考えられるが、『人魚姫』では人魚がその美しい声とひきかえに人間の足を手に入れる。また、子ども向けのアニメでも人魚のキャラクターはその声に特別な力があり、歌声で船を沈めたり、歌うことで敵と戦ったりする。本文に、エノモトさんと私の声の描写があることや、人魚がたった一言発する言葉が強い力を持っていることなど、「人魚」について調べることで、読みを深める活動となることを期待したい。「参考文献」参照。

（堀　佑史）